

第

1

章

近未来の バツ タ物

近未来のバツタ物

あれは確か 1987 年。映像のプロが作ってくれた自分のプロモーションビデオを見て愕然とした。ヒドイ。ツマラナイ。完全に不機嫌になった私はアキハバラへ飛んだ。

つまり、もはやすっかり音楽は自宅で作れるのだから、映像だってきっと自宅で作れる時代になっているはずだと。数時間後にはガックリとうなだれて帰宅することになるのも知らず…。

「コンピューターなら何でも出来る。そうとも、コンピューターなら何でも出来るんだとも」

パソコンが普及する前の時代。これがコンピューターを一度も触ったことの無い者が、無邪気に描くコンピューター像だ。かわいそうに無知なヒラサワ、ああ、哀れ。

そして数時間後。

「そんなことできっこない」

「そんなことは、できっこないのだ…」

アキハバラは不可能性の砦だった。いや、パソコンは絶望のまねきねこだった。うちひしがれて帰路につく地下鉄千代田線の車中。そんな私の顔を隣の席から覗きこむのは誰だ？ どうせまた「昔ファンでした」とか言うに決まっている。昔は余計だ、昔は…。

と思えば映像屋さんの M 氏だった。私は、たった今アキハバラで味わった敗北感をとつとつと M 氏に語った。ところが、M 氏は同情のそぶりも見せず、淡々とこう言ったのだ。

「AMIGA は見ました？」

え？ AMIGA？ M 氏は弾丸のように話し始めた。AMIGA とはどうやらアキハバラには売っていないパソコンらしい。M 氏は AMIGA がどんなことをしでかすか、延々としゃべり続けている。しかし、たった今アキハバラで“お祝い電報”のようなサウンドと、モノクあるいは多くて 8 色のギザギザの静止画像（動くななんてとんでもない！）、というパソコンの限界を飽きる程見学してきた私は、M 氏の調子のいい話を信じるワケにはいかない。

「聞き流せ、こんなヨタばなし……」

M 氏は、今から家に来れば AMIGA から出力したビデオを見せると言う。

ますます怪しい。何しろアキハバラでは、コンピュータの画像をビデオに出力する機械だけで数百万円すると、学習してきたばかりだ。まあいい、今日は時間もある。騙されたと思ってついて行こう。

しかし、この後に起こったことはヨタバナしではない。信じようと信じまいと、ほんとうに起こったことなのだ。

M 氏のマンションに着くと、電話機に“留守番メッセージ有り”のランプが点滅していた。

「ちょっと待ってください」と M 氏は言い、再生ボタンを押した。

伝言は知り合いのプログラマーからだった。

「えー、AMIGA A1000 が 5 台、49,800 円で出ています。欲しい人がいたらボクの方から店に電話を入れて押さえちゃいます。えー、あと 5 台です」

嘘つけ！ 話ができすぎてる。

この二人はグルになって私をからかっているのか？

バカバカしい。こんな事が本当なもんか！ 49,800 円だと？ 今、アキハバラで学習してきたことは、いったい何だったのか。たとえ数百万払ったとしても私の望みは叶えられないと知ったばかりなのに。M 氏はニヤニヤしながらビデオをセットし始めた。

「どうします？ 買いますか？」と言って再生ボタンを押した。

「ウソだ…。ぜったいウソだ…」

モニターには美しい 3D アニメーションが映っていた。チェッカー模様の床の上でリアルな質感のロボットが、ガラスの球体でお手玉をしている。

ガラスの球体には周囲の景色が映りこんでいる。それは、リアルタイムで動いているのだという。3DCG のジャグラーだ。3DCG のジャグラーがリアルタイムで動いている…。

後に AMIGA ユーザーとなった私が、私をウソつき呼ばわりする人々を、一瞬で黙らせる最終兵器として重宝した、ジャグラーだ。

「え？ これ……AMIGA？ だってこれ……え？ ……49,800 円……ウソでしょ？」

「ホントですよ」

「ホントにホント？」

「ホントにホントですよ」

「ホントにホントにホント？」

「ホントにホントにホントです」

「る、留守電の彼に電話してくれる？」

「買いますか？」

「買い！ 買い！ 買い！ 買い！」

この話は公表してはいけなかったのかも知れない。
49,800 円という値段が正規の値段のはずがない。そもそも私は AMIGA A1000 の正規の値段を知らない。

私が入手した AMIGA A1000 には、「AMIGA」のエンブレムが付いていない。

後日、私につられて某スタジオ・オーナーも、あの 5 台のうちの 1 台を入手したが、もちろん彼の AMIGA にもエンブレムは付いていない。これが恐らくは、日本の音楽業界に初めて投入された、たった 2 台の AMIGA A1000 である。

その後、繁殖した形跡は無い。完全に無い。清清しく無い。

(98/12/22 09:48)